

平成28年度一般会計補正予算(第3号)を可決

景気対策事業を含め約8億6千万を増額

平成28年度高山市一般会計補正予算(第3号)を審査しました。

道路修繕等を行う場所はどうやって決めたのか。

緊急性の高いものや以前から要望のある場所を選定している。

下水熱を利用した凍結防止装置の実証実験はどこで行うのか。

高山駅前と山王橋の2か所を予定している。

その2か所を選定した理由は、

冬の路面凍結など路面状況が厳しい場所を選定した。

工事中は歩行者等の安全確保に努める。



予算決算特別委員会の様子

議第72号

平成28年度高山市一般会計補正予算(第3号)

補正額 864,954千円

○景気対策事業 600,000千円

- ・道路等維持修繕
- ・公共施設修繕 など

○その他 264,954千円

- ・ふるさと納税増加による贈呈品 51,000千円
- ・下水熱を利用した凍結防止装置の設置(実証実験) 18,000千円

議員発議

学校教育現場の体制整備と財源確保を求める意見書

グローバル化や生産年齢人口の減少など社会情勢や経済の急速な変化とともに、学校現場が抱える課題が複雑化・多様化する中で、貧困問題への対応や保護者等からの要望への対応など、学校に求められる役割が拡大し、学校や教員だけでは解決できない課題が増大している。

高山市においては、地域で子どもを育むさまざまな取り組みが自主的かつ積極的に展開されているが、教員の担う業務は増える一方で、子どもと向き合う時間が削られているとの声をよく耳にするところであり、教員が総合的な指導を担う日本の学校の特徴を生かしつつ、複雑化・困難化する課題に対応可能な体制構築を求める声があがっている。

よって国におかれては、下記の項目について、直面する諸課題の解決の取り組みを推進するよう強く要望する。

記

1. 教職員体制の整備充実を図るとともに、専門職員や専門スタッフ等が学校運営や教育活動に参画していくための体制構築と、そのための財源を確保すること。
2. 教員が担うべき業務に専念し、子どもと向き合う時間を確保するため、学校や教員が携わってきた従来の業務を不断に見直し適正化を図ること。
3. 部活動における教員の負担軽減を図り、かつ部活動の指導を充実するため、休養日の設定を徹底した上で、地域のスポーツ指導者や引退したトップアスリート、退職教員、運動部や文化部所属の大学生等、地域の幅広い協力を得て行えるよう環境整備を進めること。
4. 教員の長時間労働という働き方を見直し、心身ともに健康を維持できる職場づくりを推進するため、定期的な実態調査の実施及びメンタルヘルス対策の推進を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年9月23日  
高山市議会